

SIFA ニュース



NO. 119

2023 年度 冬号

(公財) 鈴鹿国際交流協会

鈴鹿国際交流フェスタ 2024 わいわい春まつり 当日ボランティア募集

今年のわいわい春まつりは、再びハンターに戻り賑やかに開催します。
12月からは実行委員会も立ち上がり、高校生の参加者も増えて、おまつりの内容について活発に意見を出し合っています。



今年は、久しぶりのハンターでの開催という事もあって、できるだけお客様と双方向に交流できるような内容を目指して計画をしています。

一緒に歌い踊り、体験し、国際交流を楽しみましょう♪

現在、前日準備・当日おまつりをお手伝いして頂くボランティアさんを募集してい

内 容

〔お知らせ〕

- 春まつり ボランティア募集
- グローバルプログラム
- 行政書士無料相談会
- 心の相談
- インドネシア料理講座

〔報告〕

- 料理の紹介
- 国際理解講座「ムスリムの日常」
- 宿題支援教室
- 多言語災害ボランティア研修

ます。

おまつりを楽しみながら外国屋台のお料理も食べて頂けます。ボランティア証明書も発行しますので是非ご参加下さい♪

日 時：2024年4月21日(日) 10:00~15:30

ところ：鈴鹿ハンター及び弁天山公園

グローバルプログラムがはじまりました

このたび、JICA グローバルプログラム実習生として鈴鹿市に参りました、見正麻友（みしょう まゆ）と申します。JICA 海外協力隊として、今年の夏から2年間、ブラジルのサンパウロ州サン・ベルナルド・ド・カンポ市内の小学校にて「環境教育」をテーマに活動する予定です。

JICA 海外協力隊は政府開発援助の一環として、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施するボランティア派遣制度です。そしてグローバルプログラムは、派遣前に自治体・団体などが実施する地方創生など、国内課題解決に資する活動に参加し、国内の地域活性化に関する知識と経験を得る制度です。

今回、中部地方ではじめて鈴鹿市でグローバルプログラムが立ち上がりました。まだ鈴鹿に来て日は浅いですが、この地の温かい人々に囲まれてとても嬉しいです。ここで多文化共生の取組を中心に様々なことを学び、ブラジルでの派遣活動に臨み、帰国後も日本国内の地域課題に取り組んでいけたらと思います。

3月末まで SIFA に在籍予定ですので、是非お時間がありましたら遊びに来てください。



英語・タガログ語による

行政書士無料相談会を開催します

お近くにフィリピンの方、英語圏の方がいらっしゃったら教えてあげてください♪

開催日時：2月18日(日) 13:30~16:40 (1組30分 5組程度)

※相談者が多い場合は、午前中に枠を広げます。

場所：男女共同参画センター（ジェフリーすずか）研修室1（A）

相談内容：ビザ申請・在留資格の申請など入管手続き

帰化、国際結婚や離婚、遺言などに関すること

営業許可・登録・免許など許認可申請について他

申込み：2月15日(木)までに名前・電話番号・相談内容を書いてSIFAまで

インドネシア料理講座

と き：3月24日(日)10時~14時 ところ：ジェフリーすずか 食の工房

講師：北野 フィニ ウィボウォさん（インドネシア、西ジャワのバンドゥン出身）

定員：8名（先着順・賛助会員優先）

料理：ナシゴレン、アヤムゴレン(インドネシアのフライドチキン)

参加料：賛助会員 1,000円 一般 1,500円

申込み：3月15日（木）までに、はがき・FAX・E-mailにて、郵便番号・住所・氏名・電話番号をご記入の上、協会(〒513-0801 神戸 1-17-5)へ

※ 受講案内は3月16日（金）より順次発送予定



フィリピンの料理

ポークアドボ

材料：(4人分)

豚肉（適当な大きさに切る）	500g
醤油	1/4カップ
酢	1/4カップ
ニンニク（つぶす）	6かけ
玉ねぎ（輪になるようにスライス）	1個
粒コショウ	小さじ1
ローリエ	2~3枚
砂糖	小さじ1
塩	少々



作り方：

- ① ジップロックに豚肉、ニンニク、ローリエ、粒コショウと醤油を入れて混ぜ、肉に味をしみこませる。
- ② あたためたフライパンに豚肉を入れ、両面がキツネ色になるまで焼く。
- ③ 袋のソースを加え、弱火で30分あるいは肉が柔らかくなるまでとろ火で煮る。必要に応じて水を加える。
- ④ 酢を注いでもう5分とろ火で煮る。それから塩と砂糖で味付ける。
- ⑤ 玉ねぎを加え、2分かソースが濃くなるまで煮る。コンロから下げお皿に移し、ご飯と一緒に出す。



フィリピンの酢

国際理解セミナー「ムスリムの日常」を開催しました

鈴鹿市には外国人人口の約5%にあたる数のムスリムの方が住んでいます。地域の日本語教室にも徐々にスリランカの人が増えてきました。そこで、12月2日にイスラム教やムスリムの日常について理解を深めてもらうためのセミナーを開催しました。



よしゆき

講師は鈴鹿大学 国際地域学部の竹野富之先生で主に東南アジアのイスラム研究を専門としていらっしゃいます。そしてゲストスピーカーとして同大学・同学部の留学生さん2名にご参加頂きました。ひとりにはバングラディッシュ出身のライハン エムディさん。もうひとりにはパキスタン出身のアラム ムハンマドさんです。お二人ともムスリムの方で、テーマに沿ってお国の事情をお話し頂きました。

まずは、イスラム教の基礎知識の六進五行について説明して頂きました。特に五行(信仰告白・礼拝・断食・巡礼・喜捨)のお話の中では、イスラム教やムスリムの生活について、誤解されやすい部分にも触れられ認識を新たにしました。印象に残ったお話としては、

【女性のエチケット (アウラ)】

イスラムでは**女性の保護が重視**されるため女性の行動が一定の制約を受けることがある。**美しいものは隠す**という考えの元、例えば女性は体のラインが出すぎない服装をするのが好ましい。また髪の毛も隠した方がよい。アウラは、各国の文化や伝統によって異なる。例えば、マレーシアではスカーフで髪を隠せばよいと考えられているが、アラブ諸国では顔を隠した方がよいと考えられている。

【一夫多妻制について】妻は4人まで持てる。**但し全ての女性に平等に与えなければならない**。アラビア半島は、当時多くの女性を抱えていたので10人、20人、場合によっては100人など！妻を持ったが、教義上制限する形で4人までとなった。1人⇒4人に増えたわけではない。

*** 良く女性蔑視と言われるが、逆に女性は守るべき者として大切にしている為に誤解が生じやすい。**

【ワクフについて】イスラム独特の財産寄進制度。特にモスク建築や運営などに活用される。また五行の中には、ザカートと言って富める者は貧しい者に与える。ムスリムは所有通貨の2.5%を、所有家畜の0.8~2.5%を救済税として支払う。

【ハラル】イスラムの教義上、好ましいものと判断される行動を意味する。食品はアルコールと豚肉が禁じられていることは有名だが、他の食肉もイスラムの教えに則った方法で屠畜・加工(定められたやり方で屠畜する、血を抜いてから解体する)されている。日本では宗教上のハラルとビジネスのハラルを同一視している為、**混乱が生じている**。

実際ムスリムはハラルかどうかを自分の意志で判断する。ハラルマークはその手助けをする補助的なもの。また病気の時は、アルコールを使用した薬を服用しても問題ない。全て各家庭の判断におかされている。

【エチケットについて】

・テーブルマナー・・・料理は右手の指を使って食べる。食後、皿をなめるのは下品。足の裏を相手に見せるように座るのも下品とされる。

・トイレ事情・・・トイレトペーパーを使用せず左手の指をうまく使ってふき取る。その後トイレに備え付けであるホースを使ってお尻についた汚物を流す。

【埋葬について】・・・死んで魂が抜けたら自分の戻る身体を探すため火葬はできない。土葬が基本だが埋葬場所が少ないことが課題である。

女性蔑視と言われることについても、その行動の意味をよく理解する必要があると思いました。

留学生のお二人からは、病気をしたら何か悪いことをしたからだと思い神様に謝る。とか、悪いことがあってもその後には良いことが来るからポジティブに考える。など常にアッラーを意識した意見が聞かれその素直さがとても印象的でした。そして、コンビニにハラルのものが置いてあったらいい。学校にもお祈りの場所があると良い。金曜礼拝は遠方のモスクに行くのが大変だという困難も教えてくれましたが、友人もたくさん出来、近所にも知り合いが多くなり楽しく暮らしている様子が伺えて微笑ましかったです。

私たちはムスリムの日常生活についても関心を払い、社会としてどのように受け入れていくべきか考えていきたいです。



冬休みの宿題支援教室を開催しました

12月25日～1月5日の間に、鈴鹿市役所別館第3と鈴鹿高専にてそれぞれ5日間ずつ日を設け、外国籍児童の宿題支援教室を行いました。

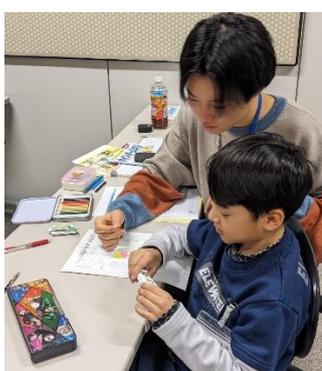
参加児童は、計31名で7つの学校から申し込みがあり、総勢41名のボランティアさんにご参加いただき開催しました。子どもたちは、ワークやプリントの他、書初めや1行日記、新聞づくりなどに取り組んでいました。国際教室から別の宿題が出ている子もいて、個々の進度がバラバラなので、できる限りその子に寄り添えるようにしました。

教室に来ると、宿題が進むのはもちろんの事、学校の先生や保護者ではない高校生・大学生や市民の方に見守られ、また他の学校の友達ができたり等、子どもたちにとってとても良い経験になったと思います。

今後も、夏休み・冬休みの時期は教室を開催していきますので、参加をご希望される方は、本協会までご連絡ください。



別館第3にて マンツーマンで学習



計算カードの練習



書初め

多言語災害ボランティア研修

1月28日(日)に みえ防災市民会議議長の山本康史さんを迎えジェフリーすずかにて研修を行いました。

山本さんは、お正月に発生した能登半島地震に支援に行かれており、写真を見せながら現地の様子を教えてくださいました。トイレが大きな課題だと言われていますが、地域住民の中でトイレの使い方を指導する人が出てきたり、避難されている方の中から消毒等を手分けして行うなど自主的に動く人たちがいて、素晴らしい取り組みがみられる避難所もあるそうです。被災者が自分ができることを見つけて動く避難所環境も大きく改善するとのことでした。

今回のテーマは、「被災者が発災後受ける支援」でしたので、色々な支援についても学びました。

避難所に避難せず、車中泊するにしても自宅に残るときもまずは、**避難所に登録**することで食料・水等の支援が受けられること、義援金を受け取ったり、仮設住宅に入ったりするためには、**罹災証明書**を発行してもらうことなど、大切なことを学びました。また、外国人の皆さんが教会や自国の飲食店の駐車場に私設避難所を開設できると伝えていく事で、避難先でも安心して過ごせるという選択肢が増えることも提案していただきました。



公益財団法人鈴鹿国際交流協会(SIFA)

〒513-0801 鈴鹿市神戸 1-17-5 別館第3 TEL:059-383-0724 FAX:059-383-0639

✉ sifa@mecha.ne.jp URL: <http://www.sifa.suzuka.mie.jp>